

令和 7 年 5 月 8 日現在

機関番号：34517

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2022～2024

課題番号：22K11051

研究課題名（和文）感染対策と子どもの権利擁護、親の負担軽減の両立を目指した入院ガイドラインの開発

研究課題名（英文）Development of pediatric hospitalization guidelines to balance infection control, protection of children's rights, and reduction of parental burden

研究代表者

藤田 優一（Fujita, Yuichi）

武庫川女子大学・看護学部・教授

研究者番号：20511075

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：小児が入院する病棟で実施することが望ましい付き添い者の負担軽減をするための支援および子どもの権利を擁護するための支援について明らかにするため、看護師長を対象に3段階のデルファイ法を用いた調査を実施した。付き添い者の負担軽減への支援14項目、子どもの権利擁護への支援6項目をコンセンサスの得られた実施すべき支援とした。

付き添い入院をした経験のある母親200名を対象に、付き添い者の負担軽減をするための支援に対する認識について明らかにするため、Webアンケートを実施した。母親から賛同の多かった項目は、「フリーWi-Fiの設置」、「寝心地のよいベッド」、「外出や一時帰宅できる時間」などであった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、デルファイ法を用いて小児病棟の看護師長よりコンセンサスの得られた付き添い者の負担を軽減する支援、子どもの権利を擁護する支援について明らかにすることができた。さらに、付き添い入院の経験がある母親を対象に調査を行い、母親が賛同する負担軽減への支援についても明らかにすることができた。これらの、看護管理者側と母親側双方の意見を明らかにしたことで子どもの権利擁護、親の負担軽減を目指した入院ガイドライン作成への示唆を得ることができた。

研究成果の概要（英文）：A three-part Delphi survey was conducted among head nurses regarding support measures that should be implemented in pediatric wards, focusing on "reducing the burden on parents staying with their children" and "protecting children's rights." As a result, consensus was reached on 14 items related to "reducing the burden of escorting" and 6 items related to "protecting children's rights."

Additionally, a web-based survey was conducted with 200 mothers who had stayed with their hospitalized children, focusing on reducing the burden of chaperoning. The items that received the most support from the mothers were "easy access to advice," "free Wi-Fi," "comfortable beds," and "time allowed for going out and returning during furlough."

研究分野：小児看護学

キーワード：小児 付き添い 感染対策 親の負担軽減 子どもの権利

1. 研究開始当初の背景

小児は発達の過程にありセルフケアが確立していないため、子どもが入院する際に親は病院側から付き添いを求められることが多い。「付き添い」とは、入院中の子どもと同一室内で24時間生活を共にしていることを示し、一時的に来院する「面会」とは区別されている(古溝, 2005)。研究代表者(藤田ら, 2012)が2010年に全国の総合病院603施設を対象に小児の入院環境について調査した結果、252施設より回答があり、62%の病院で小児が入院する際に親の付き添いが必要であり、73%の小児に親が付き添いをしていたことが明らかとなった。子どもに付き添う親としては、十分に睡眠がとれない、食事がとれない、トイレに行けない、プライバシーが確保されないなど非常にストレスフルな状況がある(Jordana, et al, 2013; 綱野他, 2017)。コロナ禍では感染予防策のために付き添いの交代ができないと、さらに親の負担は大きくなっていった。

2. 研究の目的

本研究の主な目的は以下の2点として研究を実施した。

第1研究:

小児病棟の看護師長にインタビュー調査を行い、小児や親への感染予防策、子どもの権利擁護や親の負担軽減への工夫点について具体的に明らかにし、小児病棟の看護師長を対象にデルファイ法を用いたアンケート調査を行い、コンセンサスの得られた「実行可能な子どもの権利擁護や親の負担軽減と両立できる感染予防策」について明らかにする。

第2研究:

子どもの入院に付き添いをしたことがある母親を対象にアンケート調査を行い、親が賛同する付き添い者の負担軽減をするための支援について明らかにする。

3. 研究の方法

第1研究:

1回の半構成面接調査と2回の質問紙調査から構成される3段階のデルファイ法を用いた調査を実施した。第1段階の半構成面接調査では、本研究の参加に同意を得た小児が入院する病棟の看護師長または副看護師長9人を研究対象者とした。第2段階、第3段階の質問紙調査では、本研究の参加に同意を得た小児が入院する病棟の看護師長または副看護師長196人を研究対象者とした。半構成面接調査で抽出した「感染対策を考慮した子どもの権利擁護への支援」の12のコードと、「感染対策を考慮した付き添い者の負担軽減への支援」の16のコードを質問項目とした。また、「小児の付き添いと面会の判断基準」として、先行研究(藤田ら, 2021)をもとに「小児が入院する際の付き添いの要否の判断基準」11項目、「付き添い者の交代の判断基準」6項目、「面会者の判断基準」11項目の計28項目を質問項目とし、「現時点で実施すべきと考えますか」と質問した。同意率(「5:非常にそう考える」と「4:そう考える」の合計の割合)は80%以上でコンセンサスが得られたとした。

第2研究:

0~12歳のこどもが入院した際に付き添いをした経験がある全国の母親200人を対象にWebアンケートを実施した。付き添い者の負担軽減をするための支援36項目を示し、「実施に賛同しますか?」と質問し、非常にそう考える~全くそう考えないで回答を求めた。また、入院患者用満足度尺度HPSQ-13(尾藤ら, 2005)入院時期、付き添い環境について質問した。HPSQ-13は3つの下位尺度13項目から構成されており、最高が100点で点数が高いほど満足度が高いことを示す。令和6年度の診療報酬改定により、小児入院医療管理料の算定要件として、付き添う家族等の食事や睡眠環境などの付き添う環境に配慮することが規定されたため、施行された6月の前後で比較した。病院食の希望価格、付き添い代行業者の希望価格、付き添いの依頼内容について質問した。

4. 研究成果

第1研究:

半構成面接調査では、感染対策を考慮した子どもの権利擁護への支援については12のコードを抽出し、「院内にフリーWi-Fiを設置して、学校の授業をオンラインで受けられるようにする」「積極的にももちゃやDVDの貸し出しをする」「保育士が病室を個別に訪問して年齢に応じた遊びをする」などがみられた。感染対策を考慮した付き添い者の負担軽減への支援については16のコードを抽出し、「付き添い者の体調が悪い時は付き添いなしの入院とする」「付き添い者にも自費負担で病院食を提供する」「看護師や保育士等が付き添い者と時間調整をして、院内の売店に行けるようにする」などがみられた。

デルファイ法の第1回調査では、681施設に研究を依頼して196施設より回答があり、そのうち有効回答は189件であった。同意率が80%以上となった項目は、「小児の付き添いと面会の判断基準」は28項目中6項目であり、「感染対策を考慮した子どもの権利擁護への支援」は12項目中5項目、「感染対策を考慮した付き添い者の負担軽減への支援」は16項目中10項目であっ

た。

デルファイ法の第2回調査では、196施設に送付し、151件の有効回答があった。「小児の付き添いと面会の判断基準」は7項目、「感染対策を考慮した子どもの権利擁護への支援」10項目、「感染対策を考慮した付き添い者の負担軽減への支援」30項目について質問した。同意率が80%以上の項目は、「小児の付き添いと面会の判断基準」7項目中4項目、「感染対策を考慮した子どもの権利擁護への支援」10項目中6項目、「感染対策を考慮した付き添い者の負担軽減への支援」30項目中14項目であり、これらをコンセンサスが得られた実施すべき判断基準、および実施すべき支援とした。

表1. コンセンサスが得られた実施すべきと考える小児の付き添いと面会者の判断基準

項目
小児が入院する際の付き添いの要否の判断基準
小児がひとりで安全の確保ができない場合は必要
付き添い者の交代の判断基準
親または祖父母であれば交代が可能
交代者の健康状態に問題がなければ交代が可能
面会者の判断基準
面会者はマスク等の感染対策が必要

表2. コンセンサスが得られた実施すべきと考える子どもの権利を擁護するための支援

項目
学校のオンライン授業があるときはケアの時間を調整する
付き添い者のタブレットやスマートフォンを使用して、ビデオ通話で家族との面会をしてもらう
院内にフリーWi-Fiを設置して、学校の授業をオンラインで受けられるようにする
保育士が病室を個別に訪問して年齢に応じた遊びをする
小学生以上では個人管理のタブレットやスマートフォンは時間制限をした上で使用を認める
長期入院の小児では、看護師が付き添って売店や散歩に行くことができるようにする

表3. コンセンサスが得られた実施すべきと考える付き添い者の負担軽減をするための支援

項目
付き添い者が何でも相談しやすいような雰囲気にする
付き添い者のそばに行き話をするようにする
バイタルサイン測定時に付き添い者の体調の確認も行う
看護師や保育士等が付き添い者と時間調整をして、院内の売店に行けるようにする
院内にフリーWi-Fiを設置して動画視聴やビデオ通話ができるようにする
看護師や保育士等が付き添い者と時間調整をして、気分転換のためにひとりで院内のシャワーに行けるようにする
産後うつなど精神的な疲労が過度な場合は、院内のカウンセリングを勧める
家族が荷物を持ってくるときに、一緒に付き添い者の食事も持ってきてもらう
個室では閉塞感が疲労しやすいため、感染対策をした上で廊下など病室外に出て気分転換してもらう
付き添い者にも自費負担で病院食を提供する
看護師や保育士等が付き添い者と時間調整をして、休憩できる時間を設ける
家族同士で荷物の受け渡しを短時間でしてもらう
付き添い者に寝心地のよいベッドを提供する
コロナウイルス感染患者の付き添い者には食事を提供する
長期入院では付き添い者が交代できる回数や交代できる人を増やす

第2研究：

Web アンケートでは200人より回答があった。付き添い者の負担軽減をするための支援への賛同の程度について図1に示した。「付き添い者が何でも相談しやすいような雰囲気にする」「フリーWi-Fiを設置し、動画視聴やビデオ通話ができるようにする」「付き添い者に寝心地のよいベッドを提供する」「外出や一時帰宅できる時間を設ける」などの賛同が多かった。付き添い環境の違いで比較したHPSQ-13は、「付き添い者の交代ができる」「付き添い者以外の面会が可能」「病院からの食事の提供（有料）がある」「付き添い者が寝る簡易ベッドが病院からレンタルで

きた」などの6項目において有意に高かった。診療報酬改定前後でHPSQ-13および付き添い環境に有意差はなかった。付き添い者用の病院食1食の希望価格は、「500円」、「300円」、「利用しない(コンビニや売店を利用する)」が多かった。付き添い代行業者1日の希望価格は、「いくらであっても利用しない」、「2000円まで」、「4000円まで」が多かった。付き添いを依頼する場合に依頼したい内容は、「さみしがらないようにそばにいる」、「病状の観察」、「身の回りの世話」が多かった。

今後はこれらの研究成果をふまえて、子どもの権利擁護、親の負担軽減の両立を目指した入院ガイドラインを検討していく。

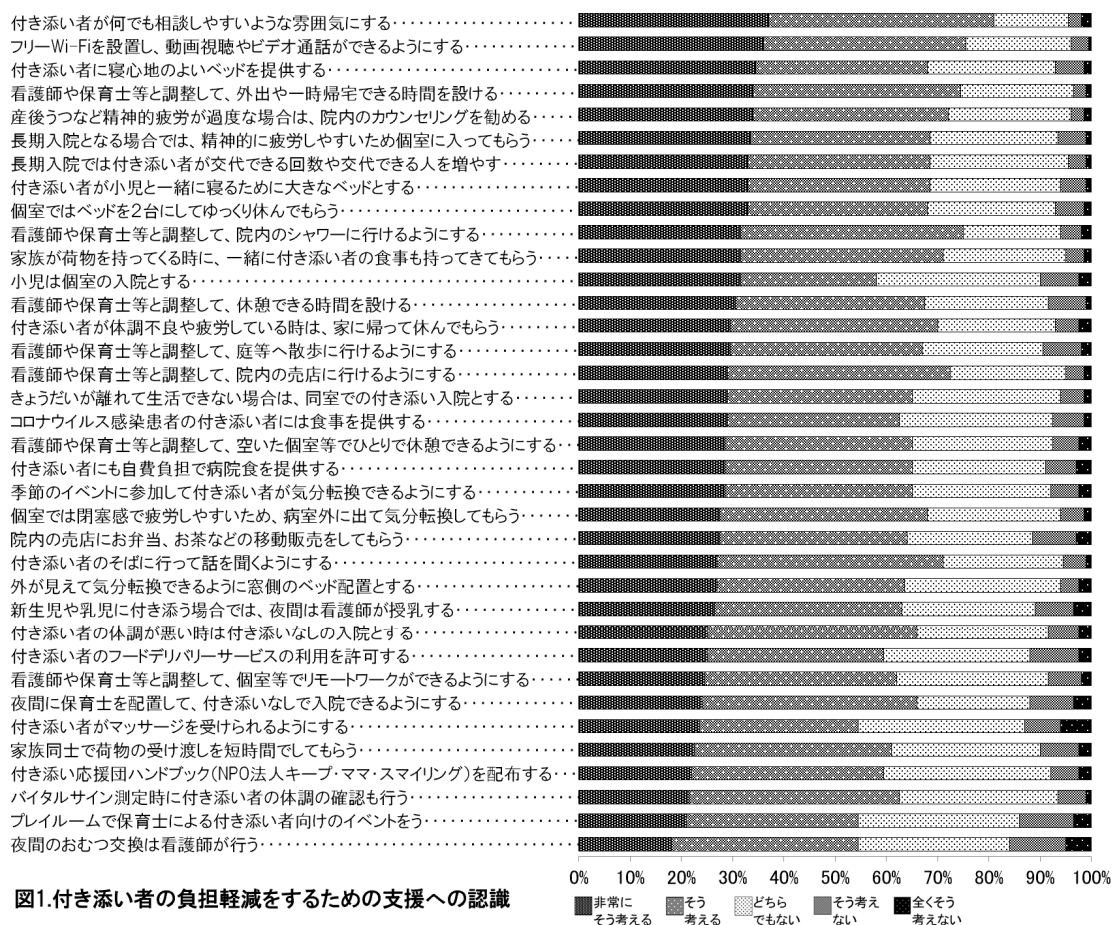


図1.付き添い者の負担軽減をするための支援への認識

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 藤田 優一, 植木 慎悟, 北尾 美香, 福井 美苗, 小笠原 史士
2. 発表標題 コロナ禍で入院する子どもとその親に対する看護師の実践 子どもの権利擁護と付き添いや面会に関する親の負担軽減への工夫
3. 学会等名 第33回日本小児看護学会学術集会（横浜）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yuichi Fujita, Minae Fukui, Hitoshi Ogasawara, Mika Kitao, Shingo Ueki
2. 発表標題 Conducting a Delphi Technique Survey: Exploring Support Strategies to Alleviate Parental Burden, Emphasizing Infection Control and Safeguarding Children's Rights
3. 学会等名 日本小児看護学会第34回学術集会（大阪市）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Mika Kitao, Hitoshi Ogasawara, Minae Fukui, Shingo Ueki, Yuichi Fujita
2. 発表標題 Ward-specific Differences in Pediatric Hospitalization Environments
3. 学会等名 日本小児看護学会第34回学術集会（大阪市）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小笠原史士、福井美苗、北尾美香、植木慎悟、藤田優一
2. 発表標題 感染対策を考慮した子どもの権利を擁護するための支援、付き添い者の負担軽減をするための支援 病棟形態別の実施可能率の比較
3. 学会等名 第71回日本小児保健協会学術集会（札幌市）
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	植木 慎悟 (Ueki Shingo) (10779218)	九州大学・医学研究院・准教授 (17102)	
研究分担者	福井 美苗 (Fukui Minae) (70882207)	神戸市看護大学・看護学部・特任講師 (24505)	
研究分担者	北尾 美香 (Kitao Mika) (90779224)	武庫川女子大学・看護学部・准教授 (34517)	
研究分担者	小笠原 史士 (Ogasawara Hitoshi) (90911404)	武庫川女子大学・看護学部・助教 (34517)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------